ライオンズクラブ国際協会　336-A地区
地区役員、委員研修会

合同奉仕活動　説明会資料

四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう

2017-2018年度
徳島キャビネット次期事務局
2017年4月22日

奉仕に関する 故 村上薫 元国際会長遺訓(1985年談)

私共は、社会奉仕するクラブ員である。社会奉仕の業のいかに困難であるか、いかに神聖な業であるか、を考えてみなければならない。人間はこの世に生をうけることによって、皆、それぞれ幸福な生活を営む権利を持っている。

それは神の授け給う特権である。これに対して、社会の恵まれない谷間に光を投ずるという仕事は、いわば神に代わった仕事でなければならない。奉仕が聖業と言われる所以である 。だからこそ、この仕事が いとも簡単にできる道理がない。

ライオンズクラブ　国際協会336-A地区
地区役員・委員研修会　　起案　徳島キャビネット(次期)

次代の財産、子どもたちを災害から守ろう

徳島キャビネット(次期)では「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」を基本スローガンとした、奉仕活動を提案いたします。2011年3月11日に発生した「東日本大地震」は未曾有の被害をもたらし、多くの命を奪いました。

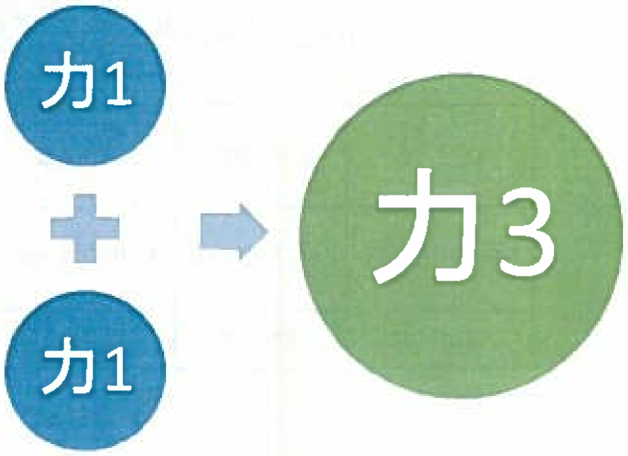
人の命に軽重はありません、そのうえで多くの子ども達が亡くなったことは慚愧に堪えません。「災害弱者」である子どもたちを救えるのは大人であって、社会の仕組みです。その仕組みに作りにライオンズとして参加したい----その強い思いが、今回の「ライフジャケット贈呈事業」です。

「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」という合同アクティビティーの背景

① 四国の子どもたちを南海・東南海地震から守るという奉仕
② MCとしてライオンズ精神を社会に情宣するという戦略
③ 336-A地区全体で地域奉仕を深耕するという実践
④ 行政、地域、ライオンズの三位共同体の関係強化
⑤ We serve として、地区全体での「共同作品」の創出
⑥ 336-A地区の連帯のもと「四県一国」の高揚感の共有

なぜ、準地区全体の合同アクティビティーとなるのですか？

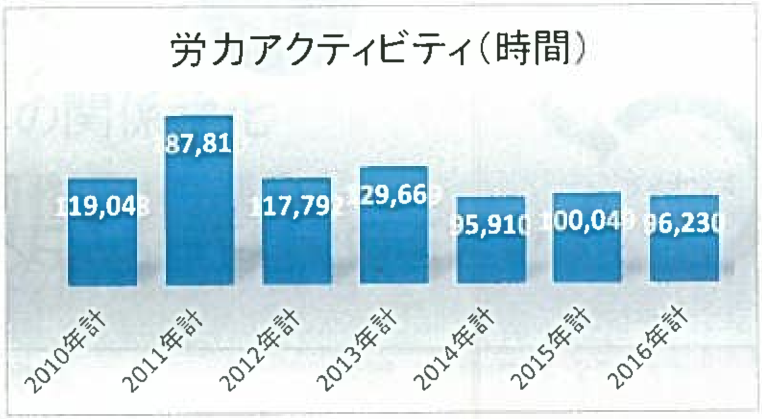
会員数の漸減により、奉仕の体力もやや弱くなっているようです。それでも個々クラブでは体力に合った素晴らしい奉仕活動を続けてくれており、ライオンズの精神は健在です。そこで、各クラブの体力を持ち寄り、単一クラブでは難しい大きな奉仕を社会に示してはいかがでしょうか。今回は「力を合わせた奉仕」の提唱です。



ライオンズクラブ　国際協会336-A地区
地区役員・委員研修会　　起案　徳島キャビネット(次期)

336-A 地区の奉仕活動の推移 （2010年～2016年）

	2010年計	2011年計	2012年計	2013年計	2014年計	2015年計	2016年計
金銭アクティビティ(円)	233,680,027	266,738,661	209,795,965	201,946,962	188,193,654	200,863,932	195,706,693
労力アクティビティ(時間)	119,048	187,810	117,792	129,669	95,910	100,049	96,230



四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう

委員会名から「地域奉仕」がなくなりました。

活動の起点は「地域への奉仕にある」と言われていました。
100年を経るライオンズ活動のなかで、その地域奉仕活動は目的に到達し、敢えて表記せずとも分かり合えている「当然の奉仕活動」に成長したから、と言われています。

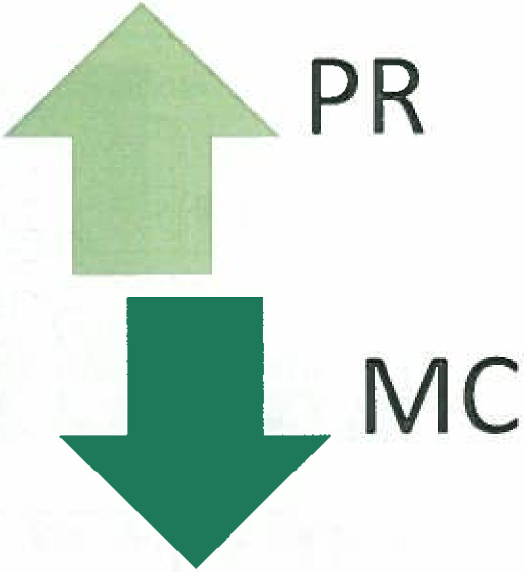
しかし、奉仕の成長にゴールはありません。もう一度地域に根ざした 、そして地域と向き合う奉仕とは何か----？をライオンとして自問しました。

委員会名が変更されました

「PR」からなぜ、「MC」になったのでしょうか--？

Public とのRelation は一方通行であった---、と云う反省が委員会名の変更につながったのではないかと思われます。「奉仕をしています」と云う情報は発信するものの、その結果の検証が十分でなく、広報活動が十分機能していなかった。

しかし、Marketing Communication は ,市民という市場(market)と交流(communicate)する事によって奉仕活動がより深いところで実施され 、その効果を高めることが可能となります 。また、交流することで互いを理解し、親和性の高まりも期待できます。



「やってもらいたい事は私たちに訊いて----」という声

奉仕の形も多種多様です。だからこそ、奉仕の提供者と受ける側とのマッチング精度を上げたいと考えます。「求めている奉仕を求めている所に」これが基本です。せっかく提供する奉仕も相手が求めているものでなければ奉仕の効果は低下してしまいます。

災害から子供たちを守りたい、と言う思いは行政・地域・学校側とも一致している

四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう

地域(行政側)と話し合いました(MC)。8，9/Rでのライフジャケット要望個数です。

学校名	数　量	学校名	数　量
徳島市	1,118	美波町	110
鳴門市	423	海陽町	149
小松島市	417	松茂町	12
阿南市	429	北島町	0
吉野川市	67	藍住町	0
阿波市	96	板野町	31
美馬市	66	上板町	72
三好市	106	つるぎ町	50
勝浦町	0	東みよし町	64
上勝町	0	国府支援学校	44
佐那河内村	40	徳島視覚支援学校	5
石井町	110	徳島聴覚支援学校	15
神山町	52	ひのみね支援学校	15
那賀町	7	板野支援学校	5
牟岐町	67	合　　計	3,570

では、そのライフジャケットは、いくらの値段でしょうか

A社製　防護頭巾型
約　￥3,500

B社製　リュックサック型
約　￥15,200

城山ライオンズクラブ結成40周年会場に設置された募金活動ブース

寄付をされる、姉妹クラブ『米子城山ライオンズクラブ』L古谷

当日設置された案内板と募金箱

ライオンズクラブ　国際協会336-A地区

地区役員・委員研修会　　　　起案　徳島キャビネット(次期)

知事は式典での挨拶で、ライフジャケット贈呈事業に謝意を述べてくれている。

慈善ゴルフで
防災対策支援
徳島城山ライオンズク

子どもたちに防災グッズを贈ろうと、徳島城山ライオンズクラブ(徳島市)は11日、同市入田町の徳島カントリー倶楽部月の宮コースでチャリティーゴルフ大会を開いた。

会員ら116人が30組に分かれてプレー。1人5千円の参加費計58万円のうち30万円で子ども用ライフジャケット100着を購入する。ライフジャケットは県教委を通じて希望する県内の小学校に贈る。

大会はクラブ結成40周年を記念した事業の一環。委員長の阿部幸市さん(78)=同市佐古三番町、建設業=は「子どもたちを津波などから守るために使ってほしい」と話した。

(吉松美和子)

ティーショットを打つ参加者＝徳島市入田町の徳島カントリー倶楽部

【紙面編集】齋藤邦彦

この奉仕活動への参加の仕組みは----？

この合同アクティビティーは徳島キャビネット(次期)が主唱しています。そして、336-A地区147クラブに呼びかけています。しかし、その地域の特性、クラブ体力、そして多様化した奉仕のありようも考慮しなければなりません。それを踏まえて、この合同アクティビティーへの参加の是非は各クラブの判断が優先されます。これは当然であり、徳島キャビネットはその判断を尊重します。

ただ、私たちは「奉仕」というライオンズ精神の根本を準地区全体で共有したい、という強い思いがあります。それは、会員の日々の活動に自信を持ってもらえるかもしれません。また、ノンライオンの共感を呼び、新たな会員増につながるかもしれません。この一大事業は単一クラブでは成し得ません。各クラブでの十分な議論を経て、この合同アクティビティーにご理解くださることをせつに望みます。

どうかよろしくお願いいたします。

お聴きくださりありがとうございました。
お礼申し上げます。